

# 日本文化特論VB(文化交流)

選択 2単位

濱田 陽

## 1. 授業の概要(ねらい)

【学際的、国際的視野に立つて日本文化を研究し、論述する力を身につける】

修士論文執筆の構想力、論述力を高めるための、発表・討論・論文検討機会を提供する。秋学期は論文中に展開される論理、学術用語、文献リストなどを検討し、研究テーマを深化させる重要な時期として位置づけられる。

文化学にはアイデアを具象化する構想力、論述力が必要である。その向上のため「研究レジュメ」の作成を指導する。研究テーマ設定には何度も再検討が不可欠であり、研究全体の意義を繰り返し見直さなければならない。「研究レジュメ」の内容を発展させて、「研究論文草稿」(1万字以上)を作成する。本特論は、自身の研究を見直し、進展させる良い機会となるだろう。

## 2. 授業の到達目標

【「研究論文」をまとめる】

修士論文執筆に直結するテーマについて「研究レジュメ」を作成して研究発表を行い、その内容を発展させた「研究論文草稿」をまとめる。

## 3. 成績評価の方法および基準

演習参加度と個人発表(66%)、「研究論文草稿」(33%)、プラス・アルファ(1%)

## 4. 教科書・参考文献

参考文献

必要な資料はプリントで配布

## 5. 準備学修の内容

・日常的に、図書館、インターネット、コロナ状況下で可能な範囲の実地調査を活用し、研究の軸・糧となる紙媒体情報(主として参考文献)、デジタル情報(参考文献・論文のデジタル版、参考WEBサイト、データベース等)、自己取得資料(自ら撮影した写真・動画、ノート、収集物等)を発掘、集積するよう努める。

・発表のパワーポイント、レジュメ等の電子データは発表する日の前の日曜日23時59分までにLMSオンライン「掲示板」の専用フォーラムに送信、掲載する。

・パワーポイント、レジュメ等の印刷版(発表者・指導教授を含めて必要部数)は発表者が当日、準備する。

## 6. その他履修上の注意事項

・一回の授業につき、原則二人が発表する。発表時間は15分以上～25分以内とする。10分に満たない発表、25分を超える発表を避ける。一つの発表の質疑応答を含めた時間は40分以内とする。

・LMSオンライン上で重要な情報はUPしていくため、対面授業の前後にLMSオンラインの方も確認する習慣をつけること。

## 7. 授業内容

【第1回】 初顔合わせ 研究発表のための事前確認

【第2回】 研究発表1

【第3回】 研究発表2

【第4回】 研究発表3

【第5回】 研究発表4

【第6回】 研究発表5

【第7回】 研究発表6

【第8回】 研究発表7

【第9回】 研究発表8

【第10回】 研究発表9

【第11回】 (予備日)

\*予備日はやむをえない場合の発表の再調整、その他、ディスカッションの充実、催し等を使用

【第12回】 「研究論文草稿」(1万字以上)まとめに向けて 期末まとめの意見交換会

【第13回】 「研究論文草稿」完成に向けた検討会

【第14回】 まとめ交流会

【第15回】 (オンデマンド:発表日に発表できなかった人の機会確保)